

# AMASAS分析資料集

2022年1月14日作成

2023年3月23日最終更新

はじめに

# 本分析資料集はAMASASを用いて分析を進めるうえでの着眼点の一例をご紹介します補助ツールです

本分析資料集の位置づけ

- 本分析資料集は、AMASASを使用して分析を進めるうえでの着眼点の一例をご紹介しますものです。ご紹介している着眼点はあくまで参考としてご活用ください。
- データについては最新のデータと異なっている場合がありますので、最新のデータはAMASASをご確認ください。

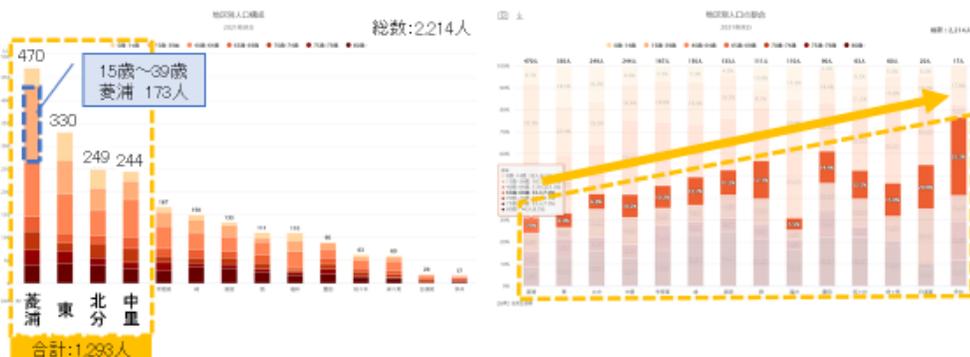
## 分析資料集の見方

地区別人口構成、地区別人口の割合

人口は一定の地区に偏っており、地区人口が少ないほど高齢化率が高い傾向にある

- 菱浦、東、北分、中里の4地区で島の人口の約6割を占める
- 15歳～39歳の年齢の人口は菱浦が他地区に比べて圧倒的に多い

- 地区人口が少ないほど高齢化率が高い傾向がある



分析グラフから読み取れる事象を紹介しています

分析グラフのどのポイントに着目すると事象を読み取ることが出来るのかを紹介しています

# 目次

---

-----  
人口  
-----

ふるさと納税  
-----

教育  
-----

産業  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

# 人口

地区別人口構成

人口構成の推移

ライフステージ動向

世帯構成分析

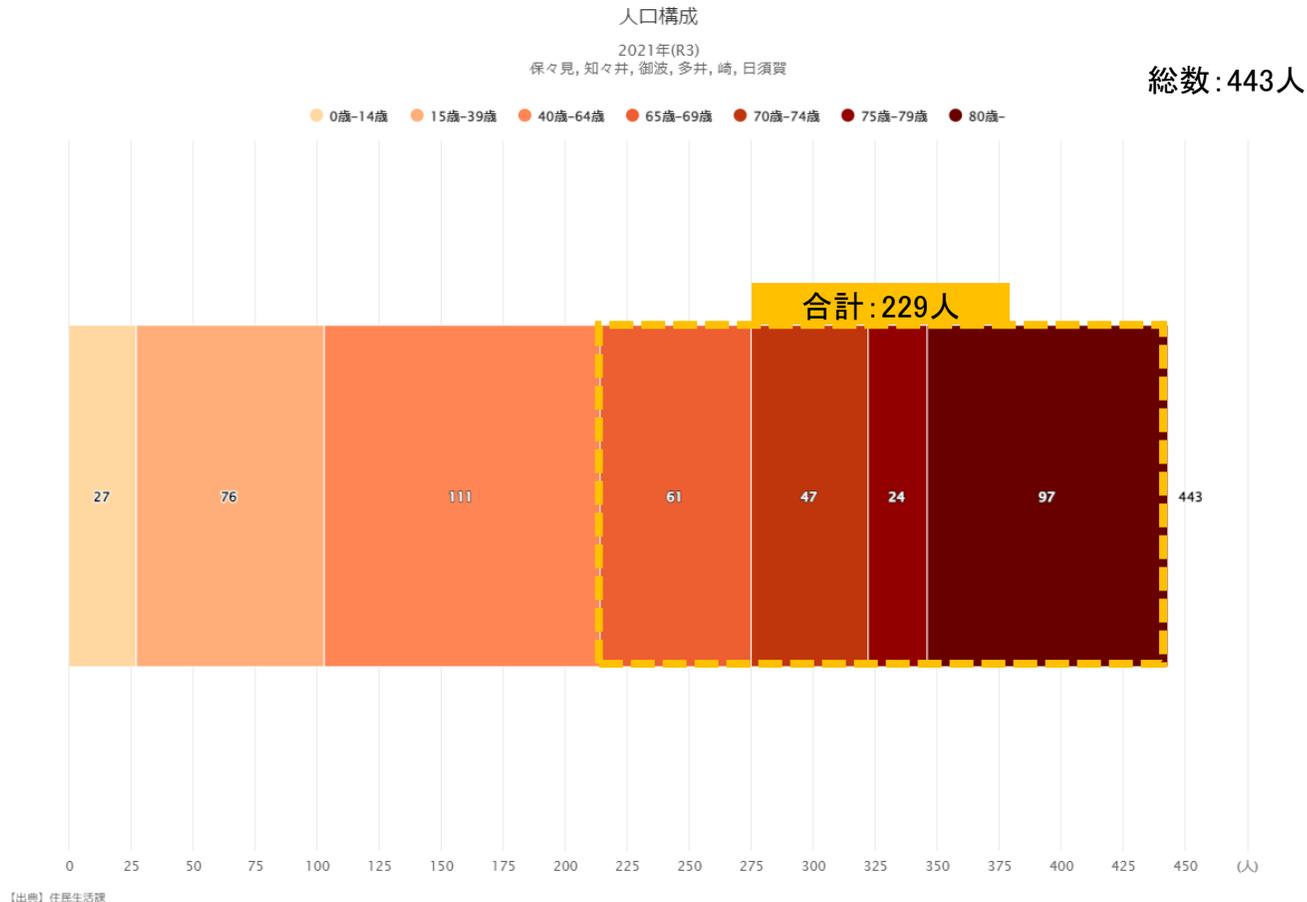
出生数・結婚世帯分析

# 人口構成

## 上方地区の人口構成は443人であり、うち65歳以上の高齢者は229人と全体の約5割占める

### 人口構成

- 上方地区(保々見、知々井、御波、多井、崎、日須賀)の人口総数は443人である
- 人口構成を見ると、65歳以上が229人と全体の約5割を占める

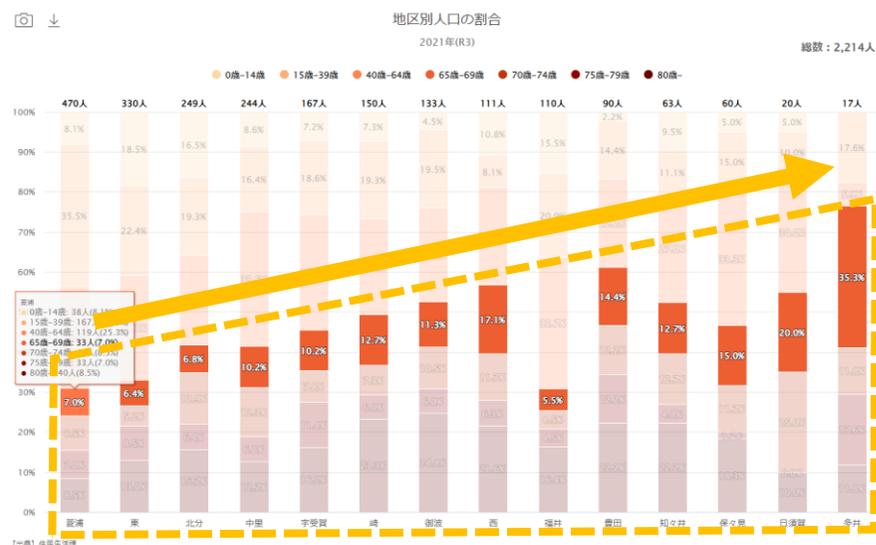
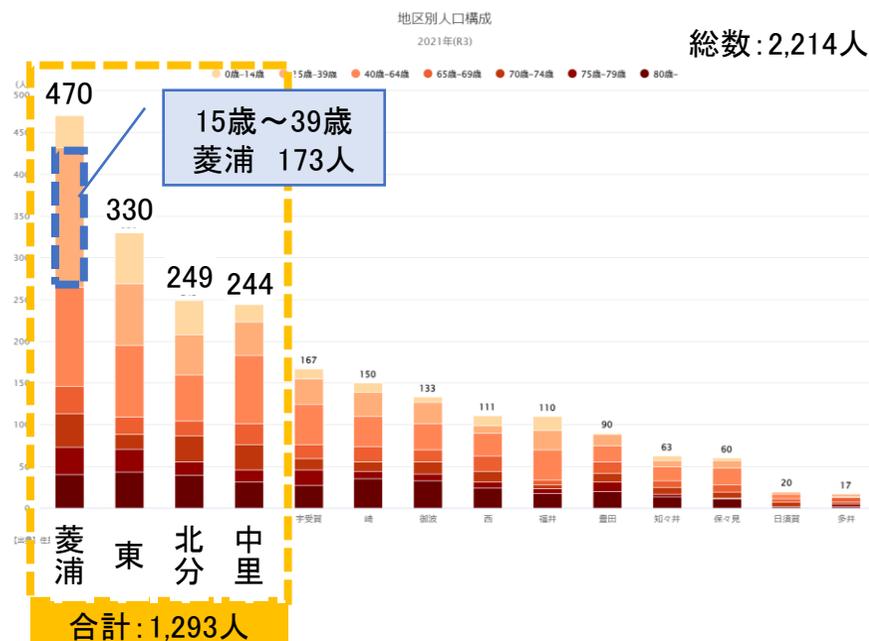


# 地区別人口構成、地区別人口の割合

## 人口は一定の地区に偏っており、地区人口が少ないほど高齢化率が高い傾向にある

- 菱浦、東、北分、中里の4地区で島の人口の約6割を占める
- 15歳～39歳の年齢の人口は菱浦が他地区に比べて圧倒的に多い

- 地区人口が少ないほど高齢化率が高い傾向がある



# 人口

地区別人口構成

**人口構成の推移**

ライフステージ動向

世帯構成分析

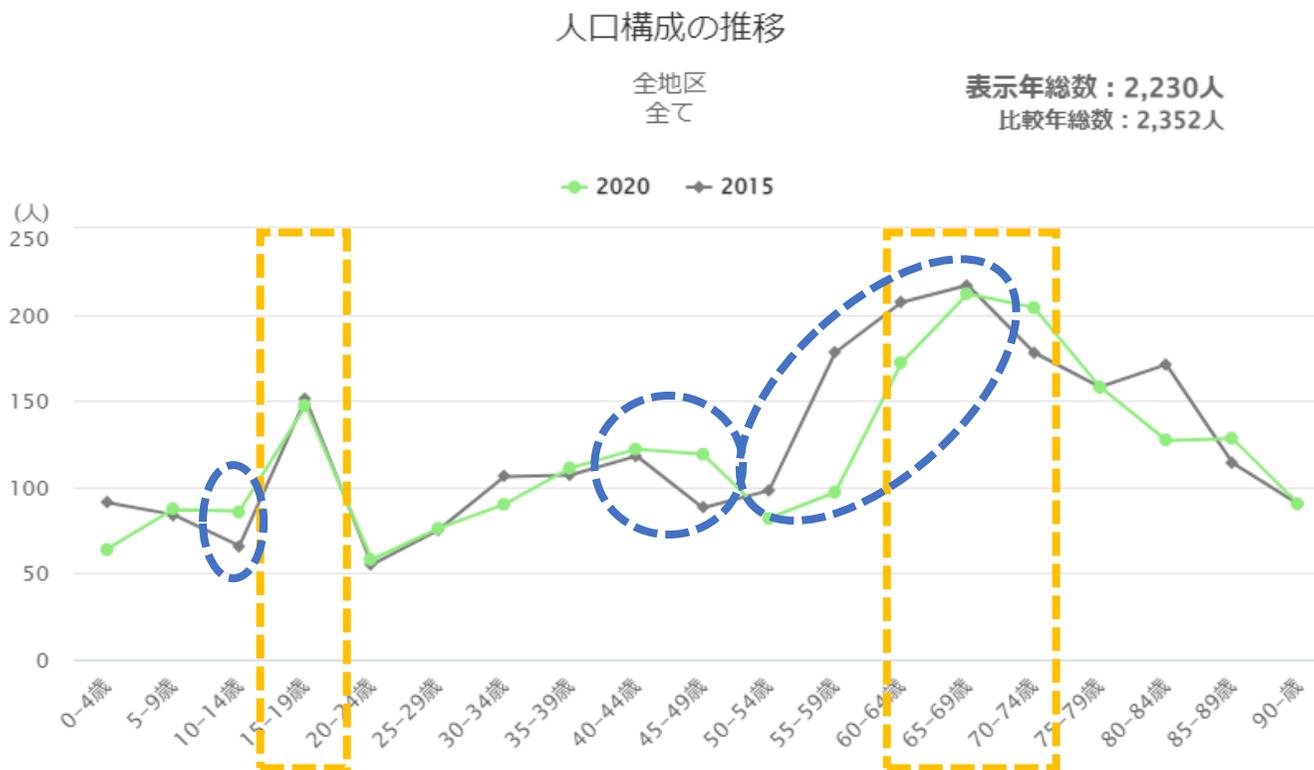
出生数・結婚世帯分析

# 人口構成の推移

60代から70代において人口のボリュームゾーンがあり、2020年では2015年に比べて40代や20代前半の人口が増えている

## 人口構成の推移

- 60代から70代において人口のボリュームゾーンがある
- 島留学の影響で15-19歳の人口の山ができています
- 2020年の50代から60代においては2015年のそれと比べて人口が減っている一方で、40代や10代前半の人口が増えている



【出典】 住民生活課

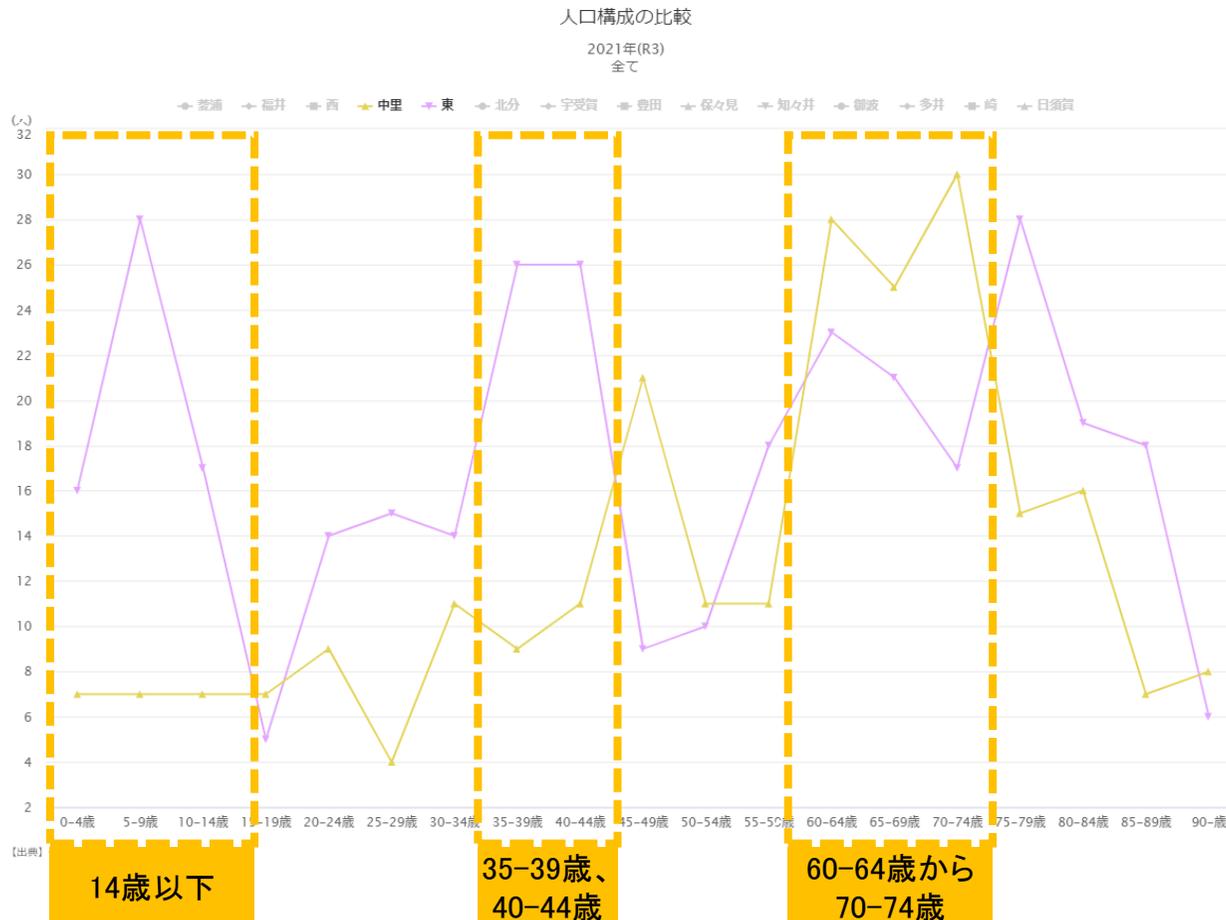
【注記】 2016年はデータがないため別の比較年を指定してください。

# 人口構成の比較

東地区では子供やその親世代の人口が比較的多く、中里地区では60歳台から70歳台前半の人口が比較的多い人口構成となっている

## 人口構成の比較

- 人口規模が同程度の中里地区と東地区の人口構成を比較すると、東地区では子供やその親世代である14歳以下、35-39歳、40-44歳の人口が比較的多いが、中里地区ではその特徴がみられず、逆に60-64歳から70-74歳の人口が比較的多い人口構成となっている



# 人口

地区別人口構成

人口構成の推移

**ライフステージ動向**

世帯構成分析

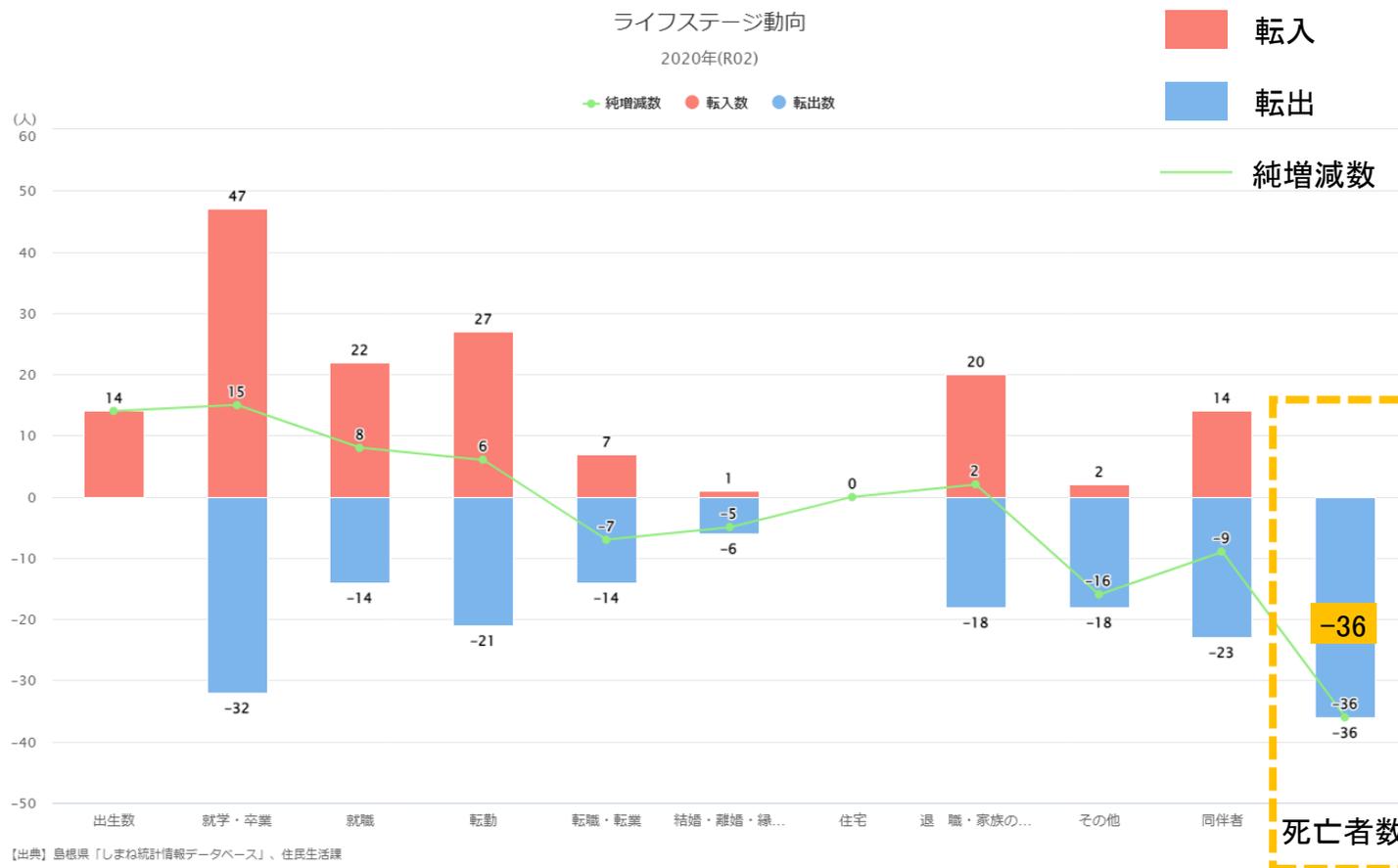
出生数・結婚世帯分析

# ライフステージ動向

## ライフステージにおいては、死亡による人口減が圧倒的に多く、転出は就学・卒業が最も多い

### ライフステージ動向

- 転入転出全体ではほぼ均衡状態である一方で、死亡による人口減が36人と圧倒的に大きい
- 2020年は就学・卒業による転出が32人と死亡に次いで大きい

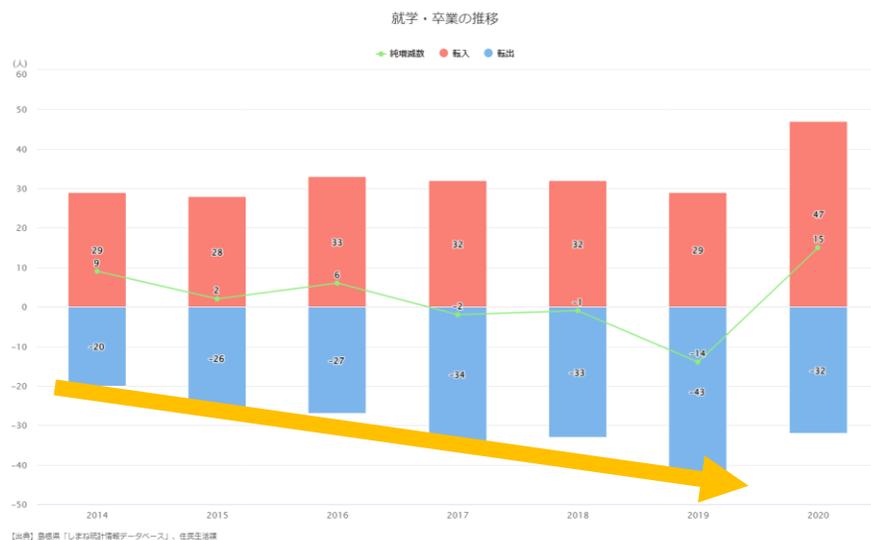


# 就学・卒業の推移、就職の推移

## 就学・卒業における転出が増加傾向にあり、就職においては2015年以降転入超過の傾向にある

### 就学・卒業の推移

- 2014年から2019年にかけて就学・卒業に伴う転出が増加している



### 就職の推移

- 2015年以降就職に伴う転入超過が続き、転入数は横ばいである



■ 転入   
 ■ 転出   
 — 純増減数

# 転職・転業の推移、退職・家族の事情の推移

## 転職・転業では転入超過がみられるものも、退職・家族の事情による転出超過の傾向が続いている

### 転職・転業の推移

- 転職・転業に伴う転入転出は都市により変動しているものもやや転入超過の傾向がみられる



### 退職・家族の事情の推移

- 退職・家族の事情による転出超過の傾向が続いている



■ 転入   
 ■ 転出   
 — 純増減数

# 人口

地区別人口構成

人口構成の推移

ライフステージ動向

**世帯構成分析**

出生数・結婚世帯分析

# 転入転出者の世帯構成の推移、転入転出者の世帯構成の割合の推移

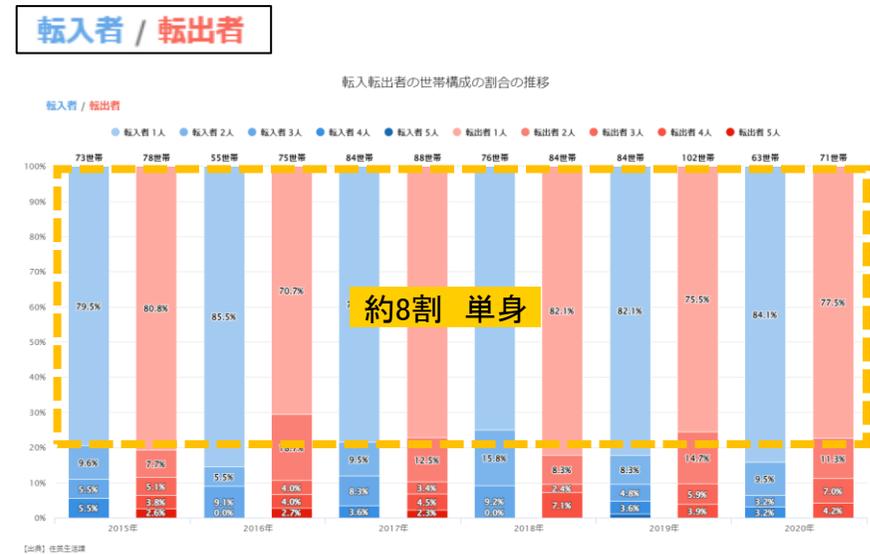
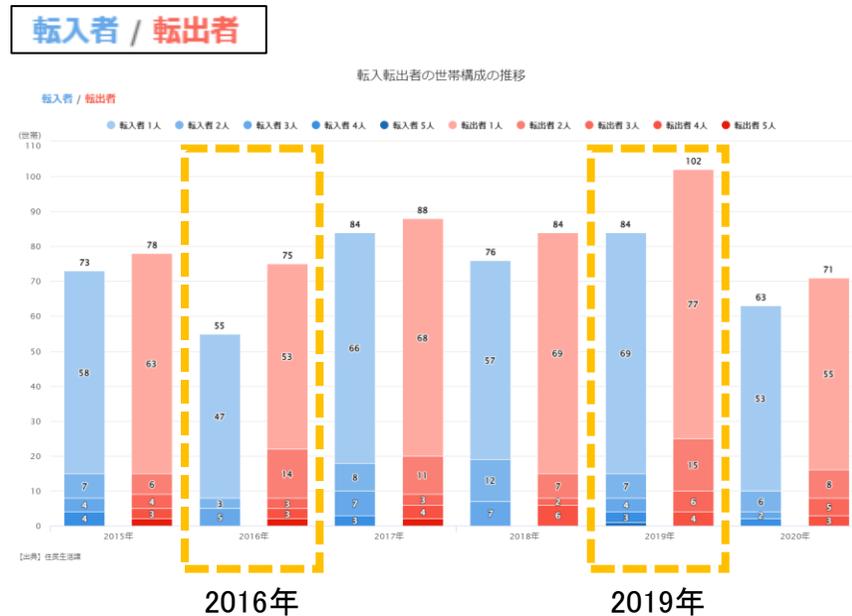
## 転入転出者の世帯数はほぼ同数で推移する傾向であり、世帯構成としては転入転出共に単身世帯が全体の約8割を占める

### 転入転出者の世帯構成の推移

- 島前高生を除くと転出の世帯数の方が多くなっている傾向であり、2016年と2019年においてその傾向が強くみられる

### 転入転出者の世帯構成の割合の推移

- 転入転出者共に約8割程度の世帯が単身の世帯である(島前高生を除く)



● 転入者 1人 ● 転入者 2人 ● 転入者 3人 ● 転入者 4人 ● 転入者 5人 ● 転出者 1人 ● 転出者 2人 ● 転出者 3人 ● 転出者 4人 ● 転出者 5人

# 人口

地区別人口構成

人口構成の推移

ライフステージ動向

世帯構成分析

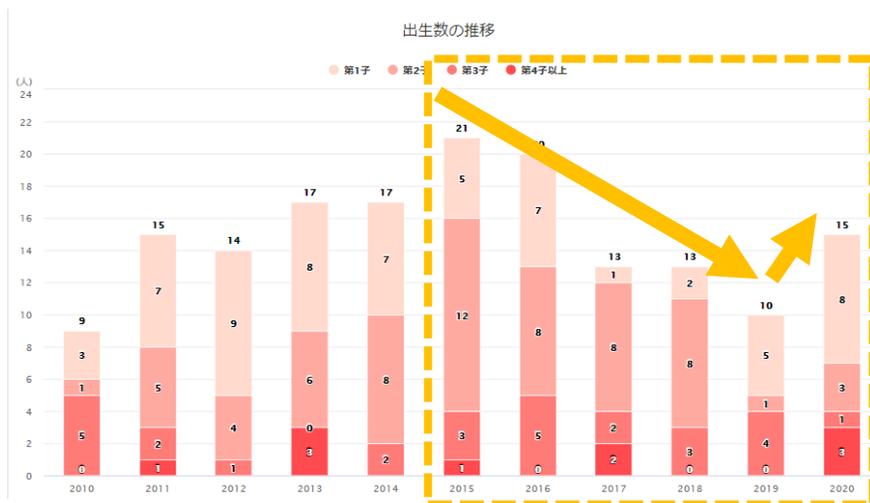
出生数・結婚世帯分析

# 出生数の推移、出生子供数の割合(5年毎)

## 2015年から2019年にかけて出生数が減少し、出生子供数に占める第1子の割合も半減している

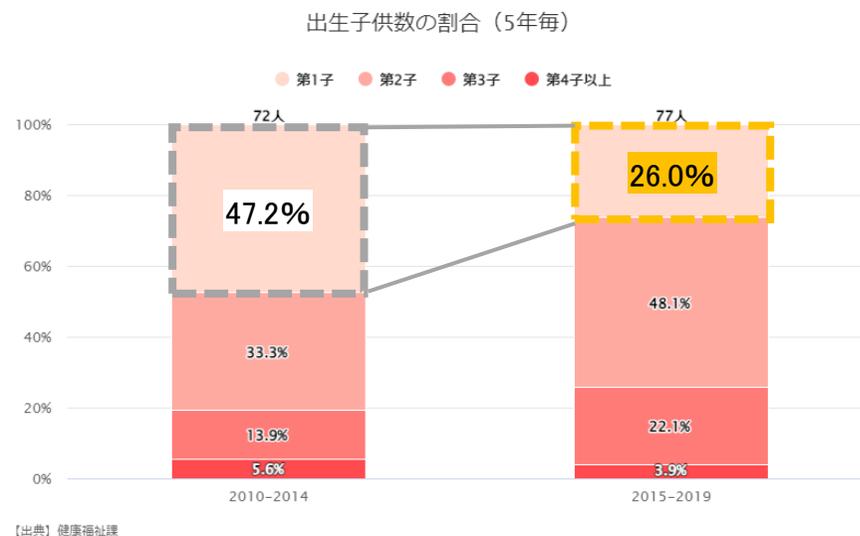
### 出生数の推移

- 直近10年で見ると、2015年をピークに減少傾向にあるが、2020年には再び増加している



### 出生子供数の割合(5年毎)

- 2015年から2019年にかけて第1子の割合(26.0%)は2010年から2014年のそれ(47.2%)に比べて半分近くに減少している



● 第1子      ● 第2子      ● 第3子      ● 第4子

# 海士町で結婚した夫婦世帯数、海士町で結婚した夫婦世帯数の構成

年による変動はあるもののほぼ毎年20代30代で結婚する夫婦が一定数おり、近年は若い世代の結婚が多いことがわかる

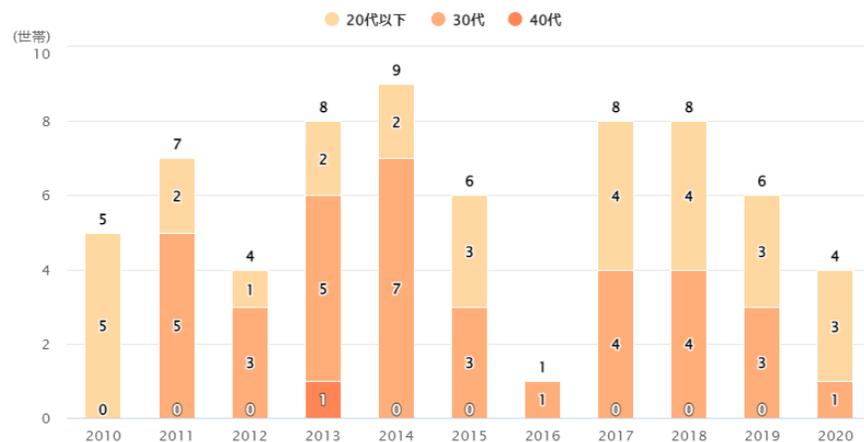
## 海士町で結婚した夫婦世帯数

- 年による変動はあるもののほぼ毎年20代30代で結婚する夫婦が一定数いる

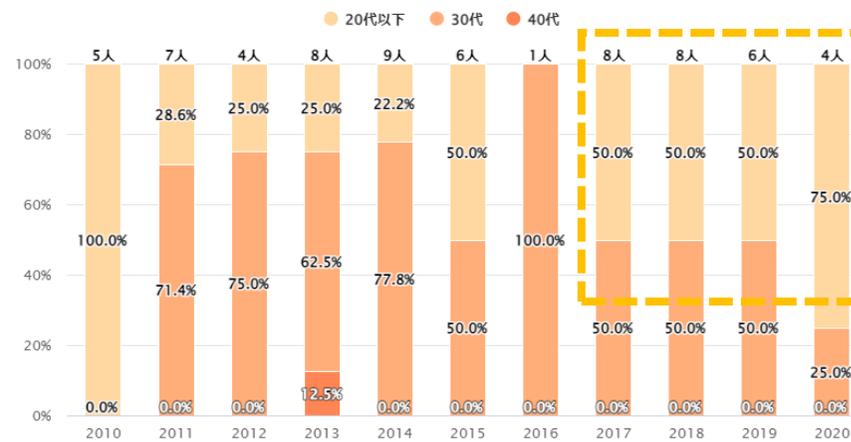
## 海士町で結婚した夫婦世帯数の構成

- 2016年以降20代以下の割合は半数以上を占める

海士町で結婚した夫婦世帯数



海士町で結婚した夫婦世帯数の構成



【出典】健康福祉課、広報海士  
【注記】女性の年齢が15～49歳の夫婦世帯数 年単位で集計（まちの進捗状況は年度単位）

【出典】健康福祉課、広報海士  
【注記】女性の年齢が15～49歳の夫婦世帯数 年単位で集計（まちの進捗状況は年度単位）

● 20代以下 ● 30代 ● 40代

## ふるさと納税

ふるさと納税拡大に向けて

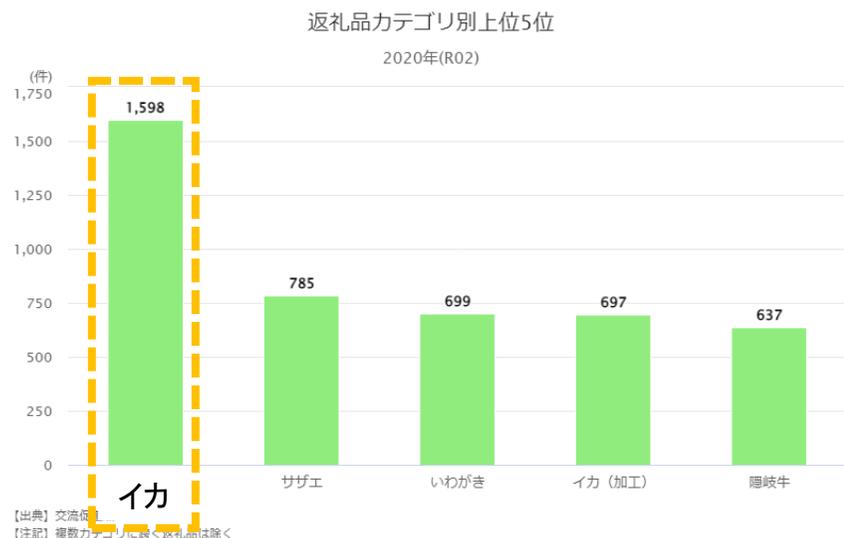
ふるさと納税の活用状況

## 返礼品カテゴリ別上位5位、返礼品別上位10位

返礼品カテゴリではイカが一番人気のあるカテゴリであること、金額ベースでは朝どれ白いかセットや隠岐牛ロース・上赤身すき焼き用500gが人気返礼品であることがわかる

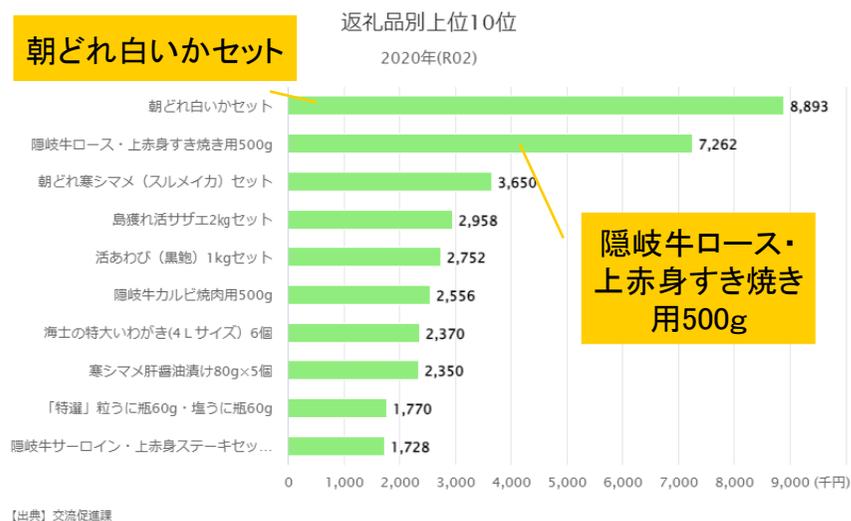
### 返礼品カテゴリ別上位5位

- ▶ 件数ベースでは返礼品カテゴリではイカが2位と約2倍の差をつけて1位である
- ▶ 件数ベースでは2位～5位まで順に、サザエ、いわがき、イカ（加工）、隠岐牛が人気カテゴリとして続く



### 返礼品別上位10位

- ▶ 金額ベースでは朝どれ白いかセットが一番の人気商品である
- ▶ 金額ベースでは件数と異なり隠岐牛の返礼品が2位にランクインする

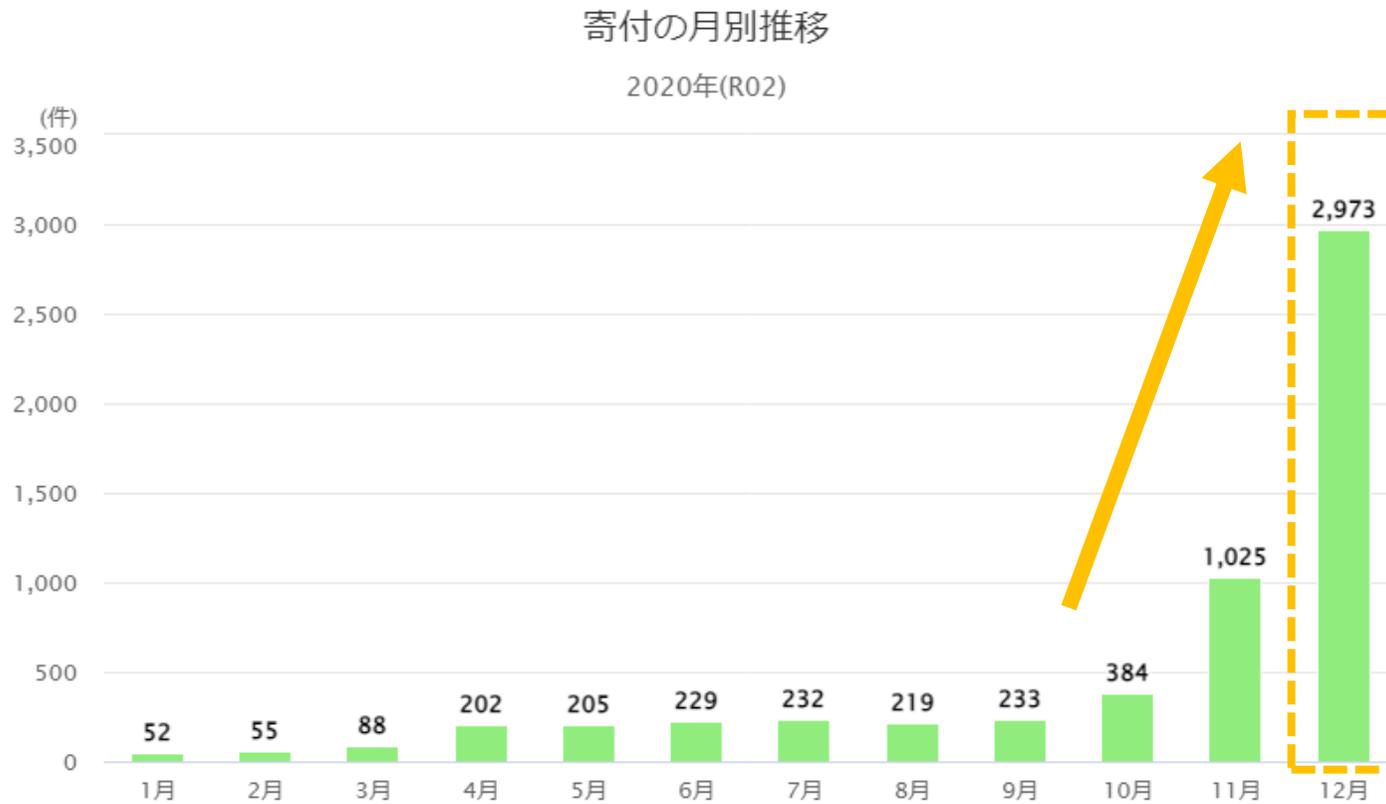


## 寄付の月別推移

11月から年末の12月にかけて申込件数が急増し、12月には通常期の10倍近くの申し込みが発生することがわかる

### 寄附の月別推移

➤ 12月にかけて申込件数が急増し、通常期の10倍近くの申込件数に達する



【出典】 交流促進課

【注記】 企業版ふるさと納税を除く

# 上位5位カテゴリの月別推移、上位5位カテゴリの割合の月別推移

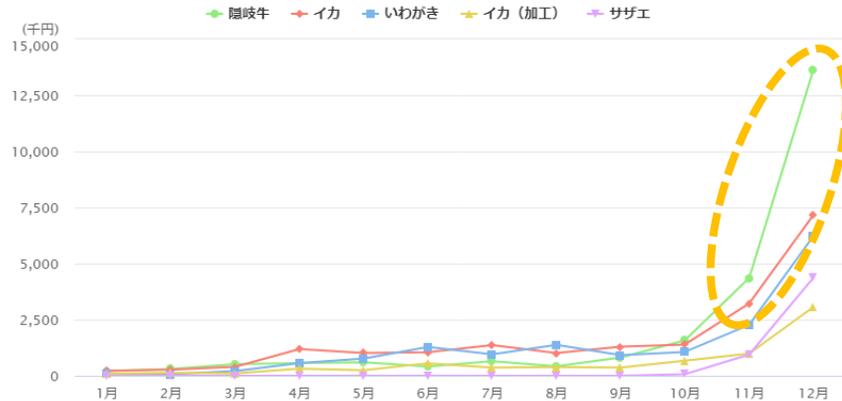
隠岐牛は金額として12月に非常に大きく伸びてくること、サザエは10月から返礼品として取り扱われ12月には2位の人気商品になっていることがわかる

## 上位5位カテゴリの月別推移

- 11月から12月にかけて隠岐牛の金額の伸びが他のカテゴリの伸びよりも非常に大きいことがわかる

上位5位カテゴリの月別推移

2020年(R02)



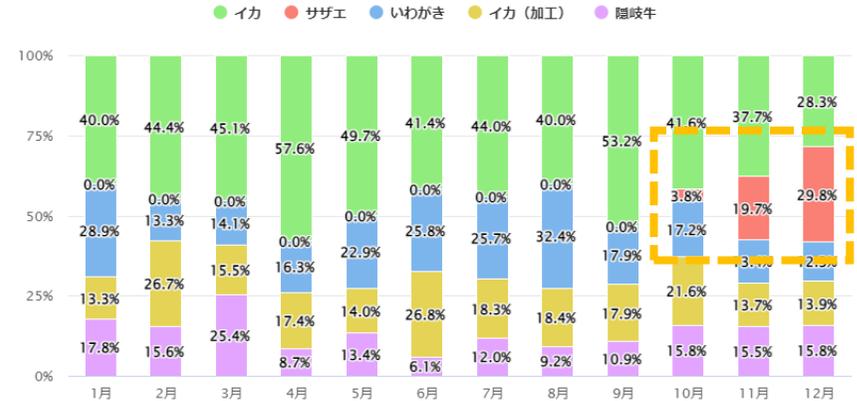
【出典】 交流促進課  
【注記】 複数カテゴリに跨ぐ返礼品は除く

## 上位5位カテゴリの割合の月別推移

- 件数としてみると9月以降サザエの占める構成割合が非常に大きく伸びて12月には2位に入っている

上位5位カテゴリの割合の月別推移

2020年(R02)



【出典】 交流促進課  
【注記】 複数カテゴリに跨ぐ返礼品は除く

● 隠岐牛 ● イカ ● いわがき ● イカ(加工) ● サザエ

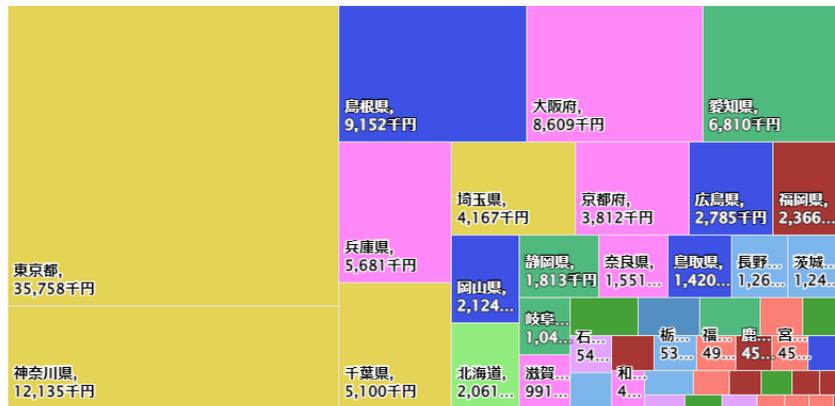
● イカ ● サザエ ● いわがき ● イカ(加工) ● 隠岐牛

# 寄付の都道府県構成(金額)、寄付の都道府県構成(人口10万人当たりの金額) 寄付金額としては関東圏が上位に入っている一方で、人口10万人当たりの金額をみると島根県や鳥取県のような近隣の件からの金額が多いことがわかる

## 寄附の都道府県構成(金額)

- 寄附の都道府県構成は黄色の関東圏が上位に入っていることがわかる
- 関東圏以外であれば、島根県、大阪府、愛知県、兵庫県から多くの寄附がきていることがわかる

寄附の都道府県構成  
2020年(R2)



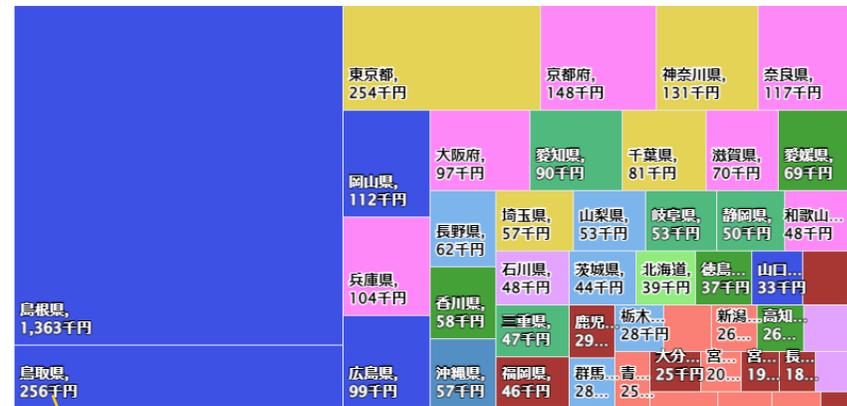
【出典】交流促進課  
【注記】企業版ふるさと納税を含む

黄色の関東圏からの金額が多い

## 寄附の都道府県構成(人口10万人当たりの金額)

- 人口10万人当たりの金額を見ると、東京都などの関東圏より島根県や鳥取県などの近隣の件からの金額が多いことがわかる

寄附の都道府県構成  
2020年(R2)



【出典】交流促進課  
【注記】企業版ふるさと納税を含む

青色の中国地方からの金額が多い

## ふるさと納税

ふるさと納税拡大に向けて

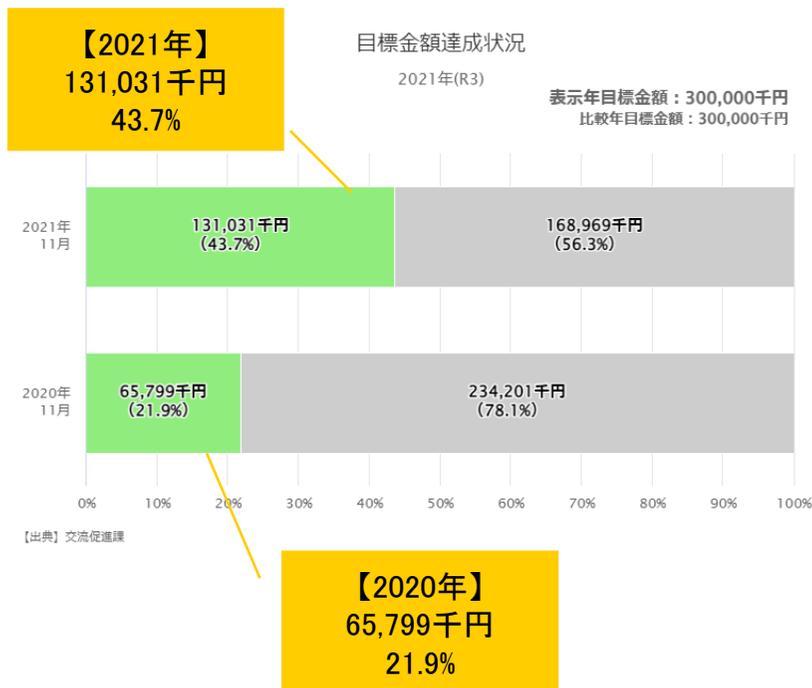
ふるさと納税の活用状況

# 目標金額達成状況、寄付金額の推移

寄付金額は2020年に急激に伸びて1億2千万円を達成し、2021年11月現在ではその金額を超えて1億3千万円に達しており達成率は43.7%となっている

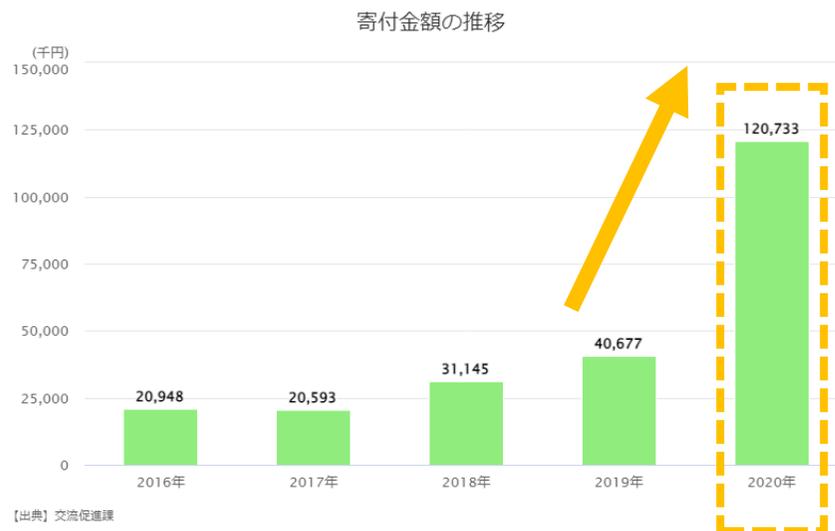
## 目標金額達成状況

- 3億円の目標に対して、2021年11月末現在では、1億3千万円(43.7%)を達成しており、前年の達成率(21.9%)を上回っている状態である



## 寄付金額の推移

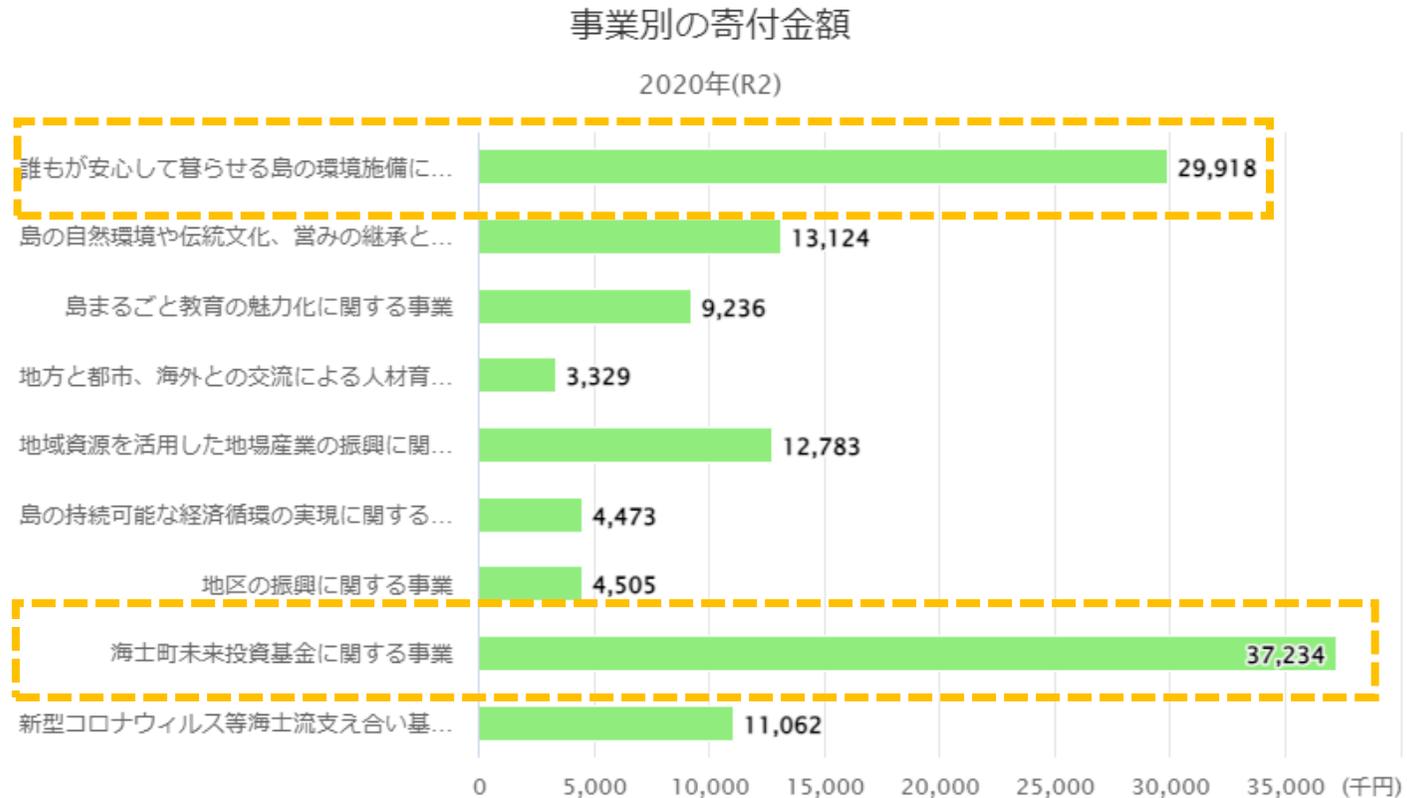
- 2019年から2020年にかけて急激にふるさと納税の寄付金額が伸び、1億2千万円に到達した



## 事業別の寄付金額

「海士町未来投資基金に関する事業」に対する寄付金額が一番多く、「誰もが安心して暮らせる島の環境整備に関する事業」が続ぎ、これらの事業が応援されていることがわかる

- 海士町未来投資基金に関する事業に対する寄付金額が一番多く、海士町の未来投資基金の取組が応援されていることがわかる
- 「誰もが安心して暮らせる島の環境整備に関する事業」の金額も続いて多いことがわかる



【出典】 交流促進課

【注記】 年度単位での金額集計。2021年はまだデータが存在しないため、表示年を2020年に変更してください

教育

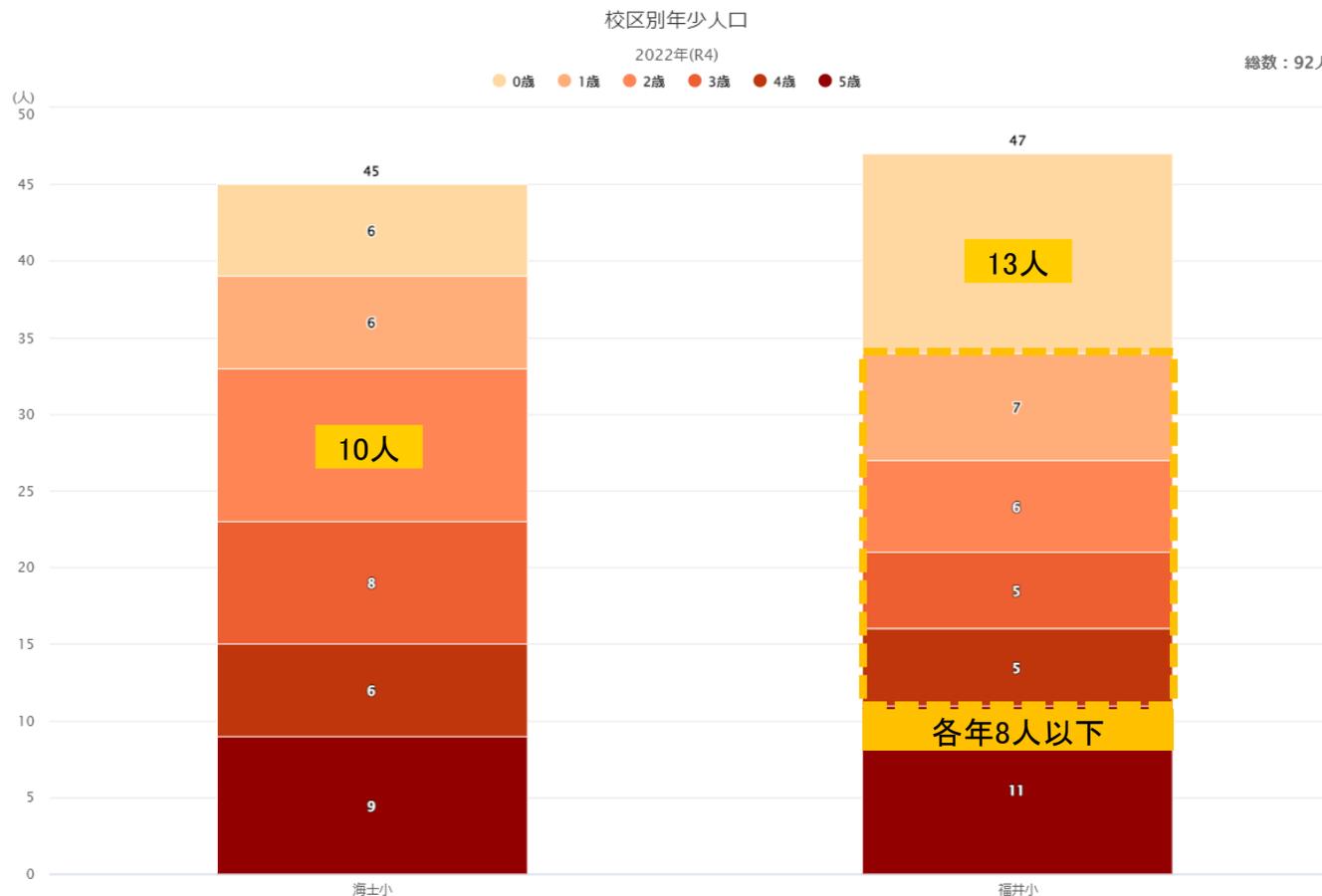
校区分析

# 校区別年少人口

福井小では1歳から4歳までが8人以下であり複式学級の検討が必要になる可能性が高く、逆に2028年に1年生となる0歳の人口は13人と多い

## 校区別年少人口

- 福井小では1歳から4歳までが8人以下であり、複式学級の検討が必要になる可能性がある
- 2022年の年少人口をみると、海士小校区では2026年に1年生の3歳、福井小校区では2028年に1年生の0歳の人口が比較的多い



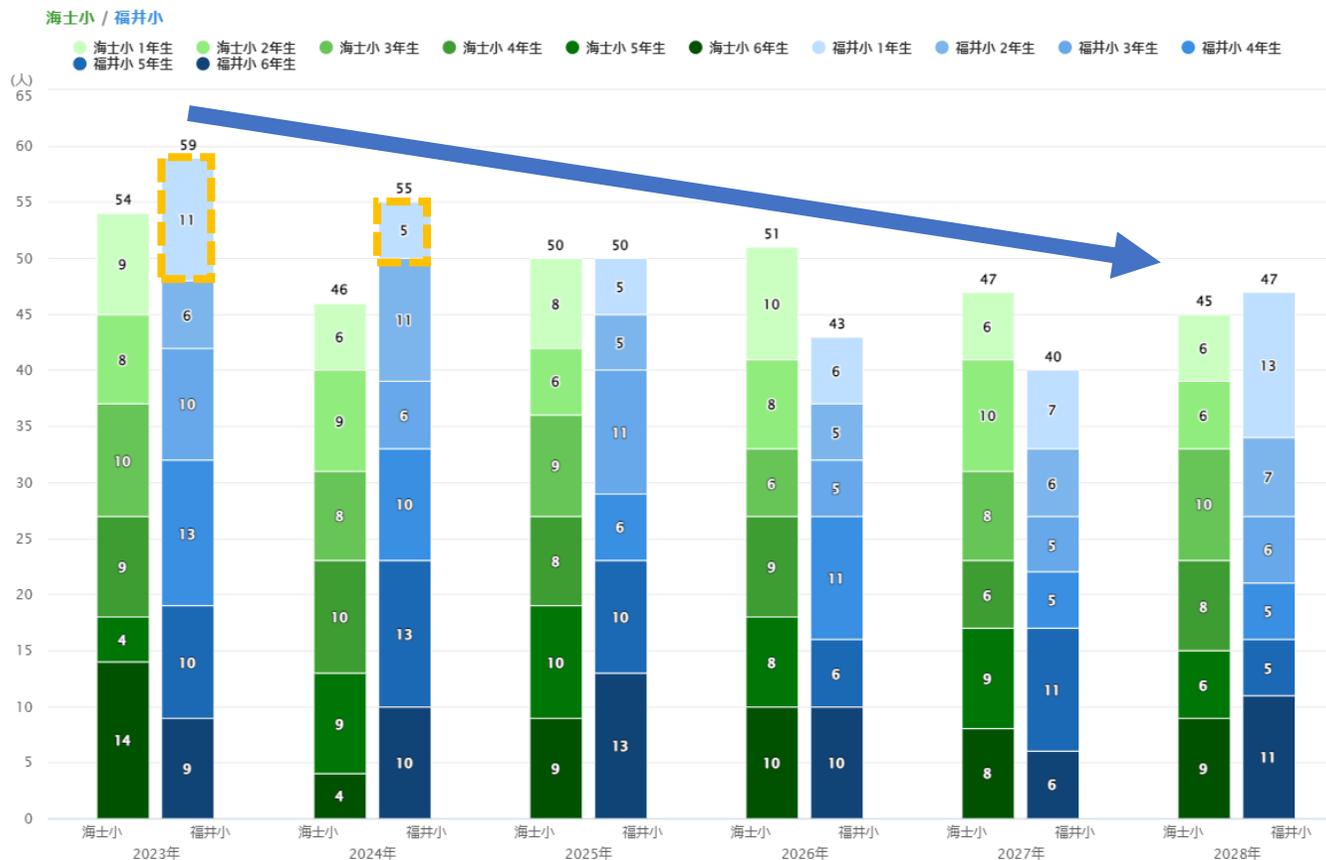
# 小学校別学生数の将来推移

現状の人口構成のままで転校などを考慮しない場合、福井小の学生数の減少の傾向が強いが、2023年の1年生は複式学級とはならない可能性がある

## 小学校別学生数の将来推移

- 現状の人口構成で転校などを考慮しない場合、海士小より福井小の方が学生数が減少する傾向が強いことがわかる
- 福井小の場合2023年の1年生は11人のため複式学級とならないが、2024年には5人となるため複式学級の対象となる可能性がある

小学校別学生数の将来推移



産業

雇用・資格

## 産業別の従業員数

社会保険・社会福祉・介護事業が最も従業員数を多く抱えている産業であり、それに加えて総合工事業、その他小売業、食料品製造業を含めて全体の約4割の従業員を占める

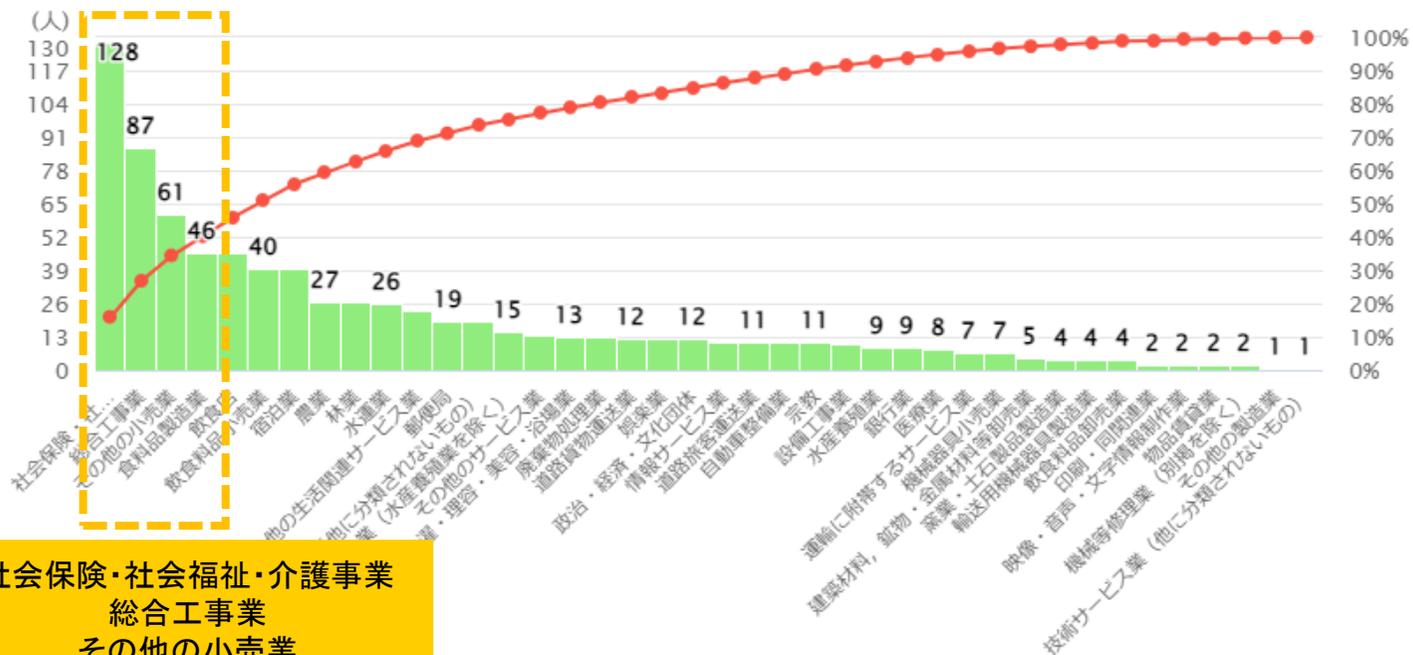
### 産業別の従業者数

- 社会保険・社会福祉・介護事業が最も従業員数が多い産業であり、全体の約16%を占める
- その後に総合工事業、その他の小売業、食料品製造業が続き、これらを含めて全体の約40%を占める

### 産業別の従業員数

2016年 (H28)

総数：801人



社会保険・社会福祉・介護事業  
 総合工事業  
 その他の小売業  
 食料品製造業  
**約40%**

## 従業員規模別の事業所数

海士町は従業員規模が1-4人である事業所が143あり全体の約9割を占めることから、ほとんどの事業所が従業員数という点で小規模に経営していることがわかる

### 従業員規模別の事業所数

- 海士町は従業員規模が1-4人である事業所が143あり全体の約9割を占めることから、ほとんどの事業所が従業員数の観点から小規模に経営している

